

栗原の稲作通信

令和6年 第7号 令和6年7月25日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント○

1. 県内におけるひとめぼれの幼穂長は、7月19日現在63.4mmとなっており、減数分裂期を迎えています。今後の気温が平年並みであると仮定すると、出穂期は7月30日頃と予測されます。
2. 向こう1ヵ月予報（7/18 仙台管区气象台）では高温となる確率が高く、白未熟粒など品質への影響が心配されますので、出穂前から「飽水管理（ほうすいかんり）」を行きましょう。
3. 周辺草地及び本田における斑点米カメムシ類の発生が多くなっていることから、注意報が発令（7/19 宮城県病害虫防除所）されています。水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回を確実に行いましょう。

1. 気象経過

○7月上旬（7/1～7/10）の気温は平年と比較して、高くなりました。7月第2半旬にまとまった降雨があり、日照時間は少なくなりました。

○7月中旬（7/11～7/20）の気温は平年並みに推移しました。降水量は平年と比較して少なくなり、日照時間は平年と比較して、やや多くなりました。

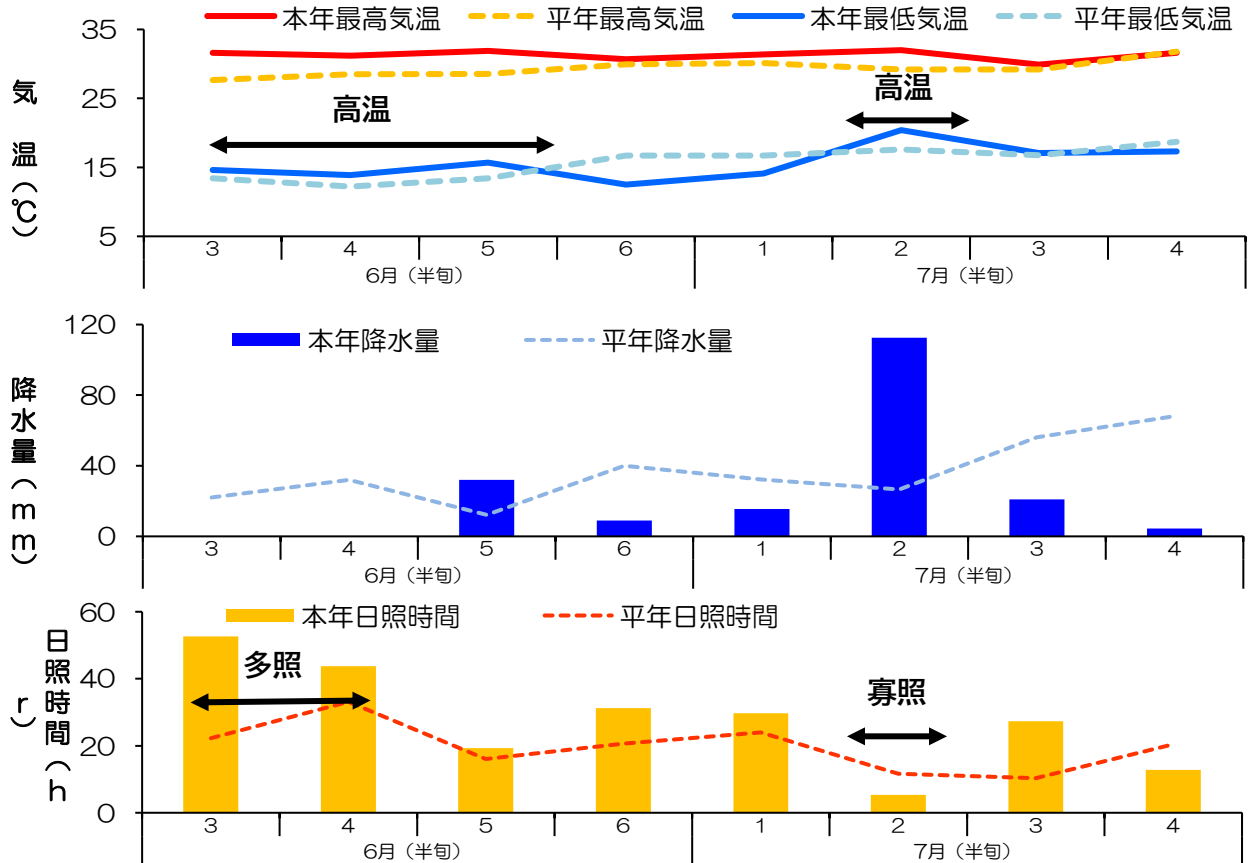


図1 6、7月の気象経過（築館アメダス） ※平年（点線）：令和元年～令和5年の平均値

2. 生育状況（7月19日現在）

1) 移植水稻

○県内における「ひとめぼれ」の生育状況は、草丈は76.5cm（平年比104%）、茎数は465本（平年比91%）、草丈はやや長いものの、茎数は平年より少なくなっています。幼穂長は64.3mm（平年差+11mm）となっており、減数分裂期を迎えています（表1、ひとめぼれ県平均）。

○当管内の「ひとめぼれ」は、若柳では平年と比べ、草丈はやや長く、茎数は少なく、葉色はやや濃くなっています（表1、ひとめぼれ若柳）。また、一迫では平年と比べ、草丈はやや短く、茎数・葉数ともに少なく、葉色は淡くなっています（表1、ひとめぼれ一迫）。

○幼穂長は、若柳で約25mm、一迫では約54mmとなっており、減数分裂期を迎えていると思われます。

表1 7月19日 生育調査結果（移植水稻）

品種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	(前年比)	(平年比)	本年	(前年比)	(平年比)	本年	(前年差)	(平年差)	本年	前年差	平年差	本年	(前年差)	(平年差)
ひとめぼれ	若柳	5/21	同日	1日遅	76.3	103	104	498	93	80	12.1	+0.6	+0.4	37.1	+4.9	+1.1	25.2	-21	-4
ひとめぼれ	一迫	5/10	2日早	1日早	67.7	92	96	384	94	94	11.8	-0.9	-0.4	29.6	-6.2	-9.0	53.9	-81	-13
ひとめぼれ	県平均	5/10	同日	同日	76.5	96	104	465	98	91	12.3	+0.0	+0.3	35.7	+1.9	-1.0	64.3	-33	+11
つや姫	築館	5/23	5日遅	1日遅	75.0	102	110	421	(87)	(90)	11.7	+0.6	+0.3	35.8	+0.7	-6.3	3.05	-3.2	1.0
萌えみのり	金成	5/18	10日遅	6日遅	78.2	94	101	506	117	102	11.6	+0.5	-0.2	47.9	+6.4	+3.2	29.7	-123	-43
だて正夢	古試	5/10	同日	同日	80.8	100	105	520	104	110	12.0	-0.3	+0.4	38.9	-0.7	-1.5	1.00	-0.5	-0.1
金のいぶき	古試	5/10	同日	-	80.5	98	-	596	109	-	12.1	-0.4	-	33.9	-2.4	-	0.90	-0.1	-

注1：平年値は過去5年間（令和元～5年）の平均値。「ひとめぼれ一迫」は過去4年間（令和2～5年）の平均値。

注2：「つや姫 築館」は本年から栽植密度が変更されており参考値（令和5年15.3株/m²、令和6年12.2株/m²）。

注3：「ひとめぼれ 県平均」は7/19調査は、県内各普及センター及び古川農業試験場における14地点の調査結果の平均。

注4：「だて正夢」、「金のいぶき」は古川農業試験場の調査結果。

2) 乾田直播水稻

○つきあかりの出穂前30日から出穂期における目標生育量（農研機構中央農業研究センター「つきあかり」栽培マニュアルより）は、草丈は47～55cm、茎数は370～420本/m²、葉色は40となっており、比較すると、草丈が長く、茎数は目標の上限値に近く、葉色は淡くなっています。

○幼穂長は、約101mmとなっており、減数分裂期を迎えていると思われます。

表2 7月19日 生育調査結果（直播水稻）

播種様式	品種	地区	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)		幼穂長(mm)	
			本年	前年差	本年	(前年比)	本年	(前年比)	本年	前年差	本年	前年差		
乾田直播 グレーンドリル 播種	つきあかり	志波姫	4/8	5日早	83.2	116	427	72	11.7	+2.0	32.4	-7.3	101	+93

注1：令和6年から品種を「つきあかり」に変更（令和5年は「ひとめぼれ」）。

注2：前年差・比は「ひとめぼれ」との参考比較。

3) 生育ステージ予測 「中生品種の出穂期は7月30日頃」

○今後の気温が平年並みであると仮定すると、県内の中生品種の出穂期は7月30日頃と予測しています。ただし、今後の気温により生育ステージが予測値から変動することがあるため、ほ場で幼穂長を確認し、生育ステージを確認しましょう。

表3 地帯区分と移植時期別の生育ステージ予測

地帯区分	移植時期			減数分裂期			出穂期		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北部平坦	5/3	5/12	5/21	7/8	7/14	7/21	7/24	7/29	8/6
西部丘陵	5/4	5/13	5/23	7/11	7/17	7/23	7/27	8/3	8/8
山間高冷	5/7	5/16	5/25	7/14	7/18	7/24	7/31	8/5	8/10
県平均	5/3	5/12	5/23	7/9	7/15	7/22	7/24	7/30	8/7

注1：生育予測に用いるデータ：①日別平均気温（各アメダス地点）、②移植時期（各地帯区分）、③移植時期の葉数（県生育調査ほ＋作況試験ほ「ひとめぼれ」平均3.1葉）。

注2：アメダスデータは、7月16日までの令和6年度実測値を使用。7月17日以降は、アメダス平年値（1991年～2020年、30か年）を使用。

注3：対象品種は「ひとめぼれ」。

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 中干し後の水管理

○基本的な水管理

中干し → 間断かんがい（穂ばらみ期）→ 浅水（出穂・開花期）→ 間断かんがい（登熟期）

○登熟期間が高温となる場合の水管理

出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。登熟期間が高温の場合には、「飽水管理（ほうすいかんり）」を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。

ほうすいかんり ～飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、限られた用水で実施可能となります。また、間断かん水に比べ、より土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まる管理法です。

✓実施時期：有効茎数確保後から出穂後30日頃まで。

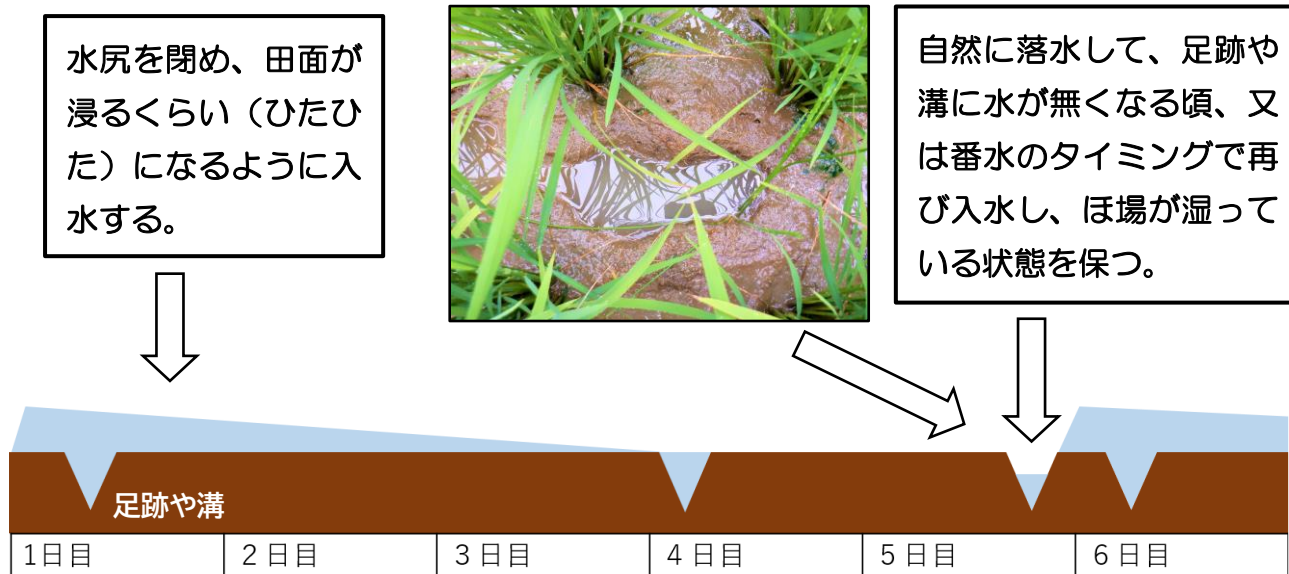
✓入水の目安：水田の足跡に水がなくなったら入水し、水尻を閉めたまま自然落水させる。

✓効果：夜間に稲体の温度が下がるため、**湛水管理よりも白未熟粒の発生を抑制することが期待できます。**

湛水管理では夜間に水温が下がりづらいため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまいます。⇒**白未熟粒の発生を助長**

重要：入水が的確に行えるように、水田の溝切りは必ず行います。

＜ほ場における飽水管理の例＞



※ 日数はあくまで目安です。地域やほ場の実情にあった水管理をお願いします。

図2 ほ場における飽水管理（ほうすいかんり）の方法

2) 落水時期の目安は 「出穂後30日以降」

○早期落水は、未熟粒の増加や千粒重の低下など、品質・収量を大きく低下させます。落水時期は出穂後 30 日以降を目安にしましょう。

4. 病虫害防除

病虫害防除所 発生予報第 6 号 （宮城県病虫害防除所：7/22 発行）

～葉いもち、紋枯病の発生に注意、草刈りを出穂 10 日前までに終えましょう～

*発生量および発生時期は、発生予報第 6 号（宮城県病虫害防除所）に基づいています。

▶斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）……………発生量「多」

発生時期（第 2 世代成虫発生盛期）「8 月第 2 半旬（8/6～8/10）早い」の予報

○注意報第 1 号を参照。

▶葉いもち……………発生量「やや少」

○ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。

○特に、萌えみのり、金のいぶきなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意しましょう。

▶紋枯病……………発生量「平年並」

○前年に紋枯病が多発したほ場では、穂揃期に茎葉散布剤を散布しましょう。

○高温多湿で発生しやすく、向こう 1 か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されているため、注意が必要です。

▶稻こうじ病……………発生量「やや少」

○穂ばらみ期に低温で、降雨日数が多いと発生しやすくなります。

○銅剤による防除適期は、出穂 10～20 日前です。

周辺草地及び本田で斑点米カメムシ類が多発！ 適期防除を実施しましょう！

- ・作物名： 水稻
- ・病害虫名： 斑点米カメムシ類(アスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ)
- ・対象地域： 県内全域
- ・予想発生量： 多
- ・発生時期： 早い(第2世代成虫発生盛期：8月第2半旬)

巡回調査：7月10～16日

定点調査ほ：大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報：仙台管区气象台7月18日発表

1 予報の根拠

- (1) 中生品種(北部平坦部)の出穂期は平年(県平均：7月30日)並の7月29日と予測されている。(±/)
- (2) 定点調査の結果、アスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期は7月第2半旬であり、平年(7月第5半旬)より早かった。また、第2世代成虫発生盛期は平年(8月第4半旬)より早い8月第2半旬と予測される。(- /)
- (3) 巡回調査の結果、周辺草地及び本田におけるアスジカスミカメ成虫、ホソハリカメムシ成虫及びクモヘリカメムシ成虫の発生地点率は平年より高く、すくいとり虫数は平年より多かった(図1～6)。(/ +)
- (4) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予測されている。(- / +)

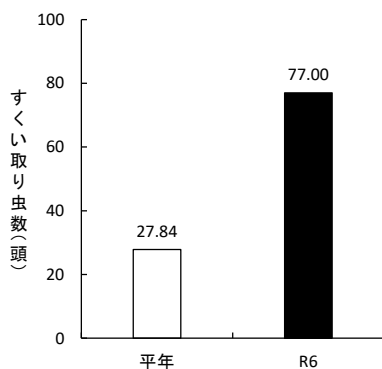


図1 周辺草地におけるアスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)

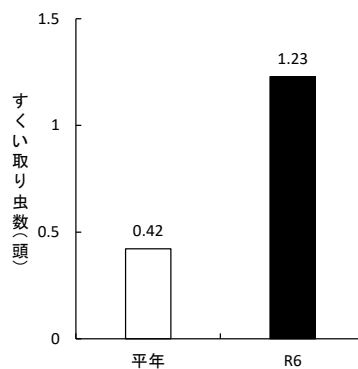


図2 本田におけるアスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)



写真 アスジカスミカメ

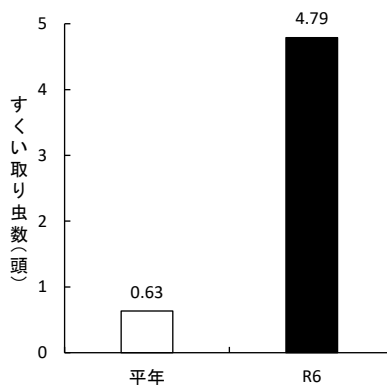


図3 周辺草地におけるホソハリカメムシ成幼虫のすくい取り虫数(7月中旬)

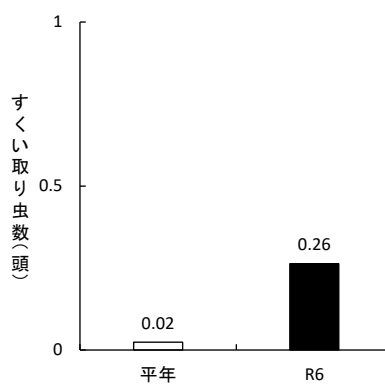


図4 本田におけるホソハリカメムシ成幼虫のすくい取り虫数(7月中旬)



写真 ホソハリカメムシ

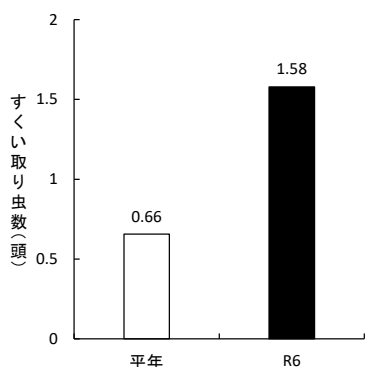


図5 周辺草地におけるクモヘリカメムシ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)

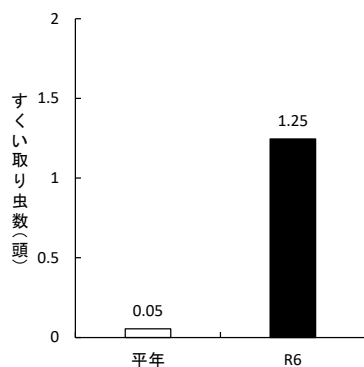


図6 本田におけるクモヘリカメムシ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)



写真 クモヘリカメムシ

2 防除のポイント

- ・ 本年は、水稻の出穂とアカスジカスミカメ第2世代成虫の発生が重なる可能性がある。水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回を確実に行う。
- ・ 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・ ジノテフラン液剤(スタークルメイト液剤 10 等)とエチプロール水和剤(キラップフロアブル)はアカスジカスミカメに対する防除効果が高く、特に、ジノテフラン液剤は残効が長く、2週間程度は発生密度を抑制することができる。
※普及に移す技術第 93 号参考資料「アカスジカスミカメの多発条件下における殺虫剤による茎葉散布処理の効果」https://www.pref.miyagi.jp/documents/8592/685973_2.pdf
- ・ クモヘリカメムシは水田に越冬世代成虫が侵入し、その後1世代を経過する。クモヘリカメムシの発生地域で「つや姫」等の晩生品種を作付けする場合は被害リスクが高くなる可能性があるため、適期防除を実施する。
※普及に移す技術第 92 号参考資料「クモヘリカメムシの発生生態」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/621917.pdf>
- ・ すでにアカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期を迎えていることから、今後、水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを行うと、成虫を水田内に追い込み斑点米被害を助長するため、原則行わない。やむをえず草刈りを行う場合は、草刈り後直ちに水田への薬剤防除を実施する。
- ・ イヌホタルイが多発しているほ場では、1回目の薬剤散布を「出穂始～穂揃期」に行うことで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できる。
※普及に移す技術第 83 号参考資料「イヌホタルイ発生水田におけるアカスジカスミカメの防除適期」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/69951.pdf>
※普及に移す技術第 88 号普及技術「イヌホタルイ発生量に基づく斑点米被害リスク評価」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/223214.pdf>

農薬危害防止運動実施中！(6月1日～8月31日まで)



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982

FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp